



みさごたより



こうちょうせんせい そんなかっこうで山歩いてたら、絶対こわいですっ

むれんやま さんぽ

牟礼山へのお散歩のすすめ♪

たしかに・・・

ふだん山登りするとき私のかっこうは

せなか
背中には



せおってますから、うっかり



←こうですが、最近さいきんは右手に



ナタ、



←こんな人たちに会うと、



とか言われかねません。気をつけようと思います・・・。

さて今日は、牟礼山について学校便りに続き、もう少し書いておきます。

まず、権現ごんげんさまとは、仏さまほとけもしくは尊とうとい方が、神さまあらわとなってこの世よに現あらわれている姿をさしま
すが、里むらの権現さまは、どういゆう由来ゆらいなのかは、はっきりわかりません。ただ、昔むかしから里の人々の
心こころのさささえになっなっていたことは確たしかです。石いしのほこらには、安政四年あんせい(1857年)と刻きざんであります
から、江戸時代末期どうきょうにつくられています。ご神体ごんたいの銅鏡どうきやうはそれより古いそうですから、いったい
いつの時代じだいからなのでしょうか???

ぜひ、近い山ですから家族でお散歩がてら歩いてみるのはどうでしょう？



ふうりよくはつでんしょあと

← 風力発電所跡を少し先に上がったところにある登山道入口です。
(先週、草払いしてきましたから、登りやすくなっていますよ)

そこから、すぐに段々畑跡のつづら折おりにさしかかり、青野熊武蘭あおのくまたけらんに導か
れるように登っていくと、雨夕モレあめゆふもれの段だん (写真下左) に達します。ここで
さっおどころ踊りが踊られていたはずなので、おそらく登山道と反対側に
広場ひろばがあったはずです。今度調査をしてきますね。



そして、山頂きゆうしやめん近くにはちょっとした急斜面きゆうしやめんがありますが、今年の
6月じもとゆうし、地元有志はの方々がロープを張はってくれているので、安心して登ることが
できます。そこを登りきると山頂に達します。

↓ここ！ 山頂とうりのすぐ隣となりに権現堂ごんげんどうがあり、その前まへは蓑掛湾みのかけわんに向か
い、南側みなみの視界しかいが↓開ひらけています。



これで里の町
やトンボロ地
形、日の出が
見られたら、
ぜったい人気
スポットです絶

てんぼうしょ
ではなんで、展望所をつくらないの???

理由は2つあると私は考えています。一つは、ぼうくうかんしじよ
防空監視所として、空と海、どちらにもにらみを
きかせていた遠目木山に対し、傘礼山は祈りの場として、木々で隠し守りたかったのではないか？

じゅうげき
遠目木山山頂は、戦時中しょっちゅう銃撃されてましたから（そういう記録があります）。

もう一つは、地形です。傘礼山の山頂は、ナタの刃のような形なので、樹を切っても、南北の方向しか見えない。里の町に向かって稜線（山の峯が伸びる線）が伸びてますから、東側が見渡せるようにするのは難しいということが分かりました。ということで、現在山頂とは別に展望所として適した場所がないか調査中です。山頂より、少し低い東側に近い将来、展望所ができると、学校のすぐ前ですから、手を振りながら、ヤッホーすると、見えるし聞こえるはずですよ。

そんな場所ができると、よけい楽しくなります。

とうこう
実はネット上の投稿で、遠目木山から傘礼山への縦走路は、視界が開ける場所がほとんどないため、

みりよく
「あまり魅力がない」

しょうかい
と紹介されています。

ところが、少し手を入れさえすれば、れきしいこう
歴史遺構が点在する、とても魅力的なルートになるはずですよ。離島の山100選に選ばれている遠目木山その視界の先には、日本三大トンボロ地形である里の街並み、反対側には、大明神橋や、中甌、下甌の島々を望み、縦走路を歩けば、季節折々の野草が様々な表情を見せてくれる。そして、傘礼山で



西の浜から見た傘礼山（左）と遠目木山（右）

は、祈りの場として、権現堂があり雨タモレの段がある。新たに展望所を設置すれば、こしきはやと きよ
甌隼人の居城であった鶴城、中世小川氏が居城とした亀城、島津氏時代の地頭仮屋跡（里小）に武家屋敷群が
ちよつか
直下に見渡せる。傘礼山からの下り道には、段々畑跡がひろがり、青野熊武蘭の細道を下る際にはかつての里の方々の生活の苦勞がしのばれる。なんてすてきなルートなのだろう。私はそう思います。

ただ急がないと、段々畑跡にはたくさん木が生えていて、その根がまもなく石垣の石積を崩し、元の山に戻ってしまうのも時間の問題です。どの場所を残すか、そして整備をするか、これも調査研究対象として、とても興味深く感じています。

“鉄は熱いうちに打て”（せいしん じゅうなん きゅうしゅう
精神が柔軟で、吸収する力のある若いうちに鍛えよ！）という言葉があります。しのうごや
収納小屋や段々畑が里から姿を消してしまっただ昭和40年代、人々の生活は便利になり、山の頂上まで芋を植えなくても、食べ物にも困らなくなりました。ただ同時に、その頃から甌島全体が急激な人口減少にさらされ、そしてそれはこの先も続いていきます。

この問題に、どう答えを導けばよいのでしょうか？

小学生であるみなさんにも、問うてみたいと思いました。